



【あいぬのまるきぶね】

## アイヌのまるきぶね

### い く とし ぞう 椎久年蔵が製作

このまるきぶねは、北海道八雲町の椎久年蔵が、大正末期に製作し、遊樂部川で使用したものを昭和9(1934)年頃、北海道大学農学部博物館に寄贈したものである。

船底は浅いため水深の浅い川や沼で使用されたものである。深い川や沼では、もっと深さがあり、安定度の高いものが用いられる。

まるきぶねは、ヤチダモ、センノキ、シナノキ、ドロノキ、シコロおよびカバナなどの木をくりぬいて製作されたものが多い。

### 神聖なふねの製作

ふねの製作は、アイヌにとっては神聖な仕事で、作業は、まず山と木の神にお祈りすることから始まる。切り倒した木の株には「あなたを舟神にしますから、この舟に災害のないように、お護りください」とお祈りをする。

細工にはモッタという小さいクワ型の彫り具を使う。ほぼふねの形を整えてから、鋭利な刃物で仕上げ上げる。

完成すると、ふねにイナウ(幣)のチップイナウをつけ、切り株にはシコロカムイイナウをささげ、ふねのつくりのお礼とふねの安全を祈るカムイノミ(お祈りの儀式)をする。

### 概要

○長さ……………6.05m ○舟べり厚さ……………2cm  
○最大幅……………49cm ○深さ……………18cm  
○高さ……………20cm

● **制作年代:**大正末期

● **指定年月日:**昭和 32(1957)年6月3日

● **所在地:**札幌市中央区北3条西8丁目  
北海道大学北方生物園フィールド科学センター耕  
地園ステーション植物園

● **お問い合わせ:**国立大学法人北海道大学  
北方生物園フィールド科学センター  
耕地園ステーション植物園 ☎ 221-0066

● **観覧形態:**観覧可(常設展示)  
※開館状況は施設のHPをご確認ください。

● **観覧時間:**9時00分～16時30分  
(入園は16時00分まで)(4月29日～9月30日)  
9時00分～16時00分  
(入園は15時30分まで)(10月1日～11月3日)

● **休館日:**月曜日(祝日の場合は翌日)、  
冬期間(11月4日～4月28日)

● **観覧料:**植物園入園料  
大人420円(30人以上団体350円)  
小・中学生300円(団体240円)

### アクセス

地下鉄:さっぽろ駅10番出口、大通駅2番出口、  
西11丁目駅4番出口より約800m

バス:「北5西7」(JRバス・中央バス)  
「北1西7」(JRバス・中央バス・じょうてつバス)  
より約400m

